

日曜論壇

太田恵美子



小・中学生

次の文章は数年前、ある国立大学教育学部の四年生、院生、博士課程の学生たちに私がGDV(グローバルドリームビジョン)教育について講義をした後の感想である。

大学院研究科二年 「自分の将来についてほとんど明確なビジョンを持たずに、ひたすら進学してきた自分の過去と照らし合わせてみると、いかにGDVの教育が小・中・高校生にとって重要なものであるかがい思い知らされました」

「大学生になって苦しみ悩んでいる状況は、決して価値のないものとは思いませんが、もっと早い時期、

根付かせたいGDV教育

このころからこのような授業を体験する事が出来れば、将来の選択肢も広がり、より充実した人生が送れるのではないのでしょうか。今までの教育を受けて来た者として、実に強くそう思います」

大学四年 「私は幼いころから自分について深く考えるという機会がありませんでした。受験戦争に飲み込まれ、戦い続けてきた私ですが、何に向かうでもなくやみくもに戦ってきました。その結果大学生にもなっているのに自分が良く分からな

い。自分を言葉で説明できない」

「さらには自分がどんな人間になりたいのか、卒業後どんな仕事に携わりたいのか見えてこなくて今、手探り状態になっています。そんな自分を見て、私は自分について何も考えてこなかったんだな、もっと前から自分の事に目を向ける機会があったら良かったと心から思います」

「GDVの授業を受けた生徒

ら」と思いました。こんな教育が広がっていかば他のどんな事よりも社会を良く変えていく力になると思います」

「受験にさえ勝ち抜けば将来は約束され、豊かな安定した生活が保障されるのだから余計な事は考えず、まずは受験を突破する事だ」と周りの大人たちに言われ続け、受験競争を勝ち抜いてきた大学生の姿である。

「地球社会に貢献する夢や志を実現させる構想を心に抱く学習」をしないまま受験突破のための知育偏重教育を受け続けた当然の姿であろう。

このような学生を今までも、

これからも輩出し続けるとすれば日本に明るい未来はない。今回の中学校学習指導要領、第一章総則 第一教育課程編成の一般方針四にそしてさらに第四総合的な学習の取り扱い5の(3)にこのGDV教育が位置付けられる事が上記のような大学生をつくらない最善の策である。

「夢とそれを実現させる構想」を生徒自身の深慮と決断によって持たせようとする教育を全国の中学生たちは待ち焦がれている。明るい未来は必ずやそこから開けると思う。

全国に先駆けて栃木市が、このGDV教育を子どもたちの心に根付かせたいと努力してくださっていることに心から感謝している。

(栃木市教育委員会参事)

2007年(平成19年)6月17日(日曜日)

日曜論壇

太田恵美子



自分は「弱

いじめを受けるは

怖から自分を素直に表現する事

自尊心をスタスタに引き裂く事

い。(栃木市教育委員会参事)

る子どもは、つらい

思ひをして

なるほどの傷を受けており、こ

生きている大問題だ。この恐

道に育てておくほかに近道はな

この文章を読んで違和感を覚えた。いじめられている子どもが「弱い立場の友達と呼ばれるいわれはない。むしろ「弱い立場の友達」とは自分の心を抑えられず、いじめを行う子どもの方だと思ふ。いじめを受けてい

生きている良い事がある「死ぬ勇気があるなら立ち向かえ」

人生や生き方まで深く目を向けるようになった。いじめは、い

は成し得ない事も愛情や友情信

打ち勝っていくつもりだ」

事にもなる。

こう思うのか」というテーマ

事が何より必要となってくる

事には人から受けたくない

いじめ根絶には人づくり

いじめによる自殺の問題が大きく取り上げられ、昨年末には文部科学相からのお願という異例の呼び掛けがあった。「弱い立場の友達や同級生をいじめるのは恥ずかしい事。仲間と一緒に友達をいじめるのは卑怯(ひきょう)な事」今、やっているいじめをすぐ止(や)めよう(抜粋)」

いじめの人間と見られているのか? フライトまで傷つけられ、二重の悲しみを受ける事は耐え難いことだ。

次(の)文章は教え子がG D V (グローバルドリームビジョン) 学習を中学校で三年間積み重ね、最後に書いた卒業論文である。「21世紀に生きる自分はどういう地球社会に貢献して行

に戸惑いを感じ、他人との距離感に悩み、心の癒やしを求める人も増えている。社会の競争原

で、自分は優越感に浸る。それがいじめだ」

2007年(平成19年)5月13日(日曜日)

日曜論壇

太田恵美子



二月にサンパウロの公立小学校と大学でグローバルドリームビジョンの授業をしたことについては前回四月八日に書かせていただいた。その学生たちが大自然の一部である草を心の目で見ながらスケッチし、「草との対話」をした文章の訳がこのたびサンパウロから送られてきた。その一部を紹介したい。

アモリン・リーマ小学校 ナヤラ。

「小さな草さんこんにちは。

私はナヤラと言う名前よ。十二歳なの。あなたには忘れられ

た草さん

て名前をつ

けてあげる

わ。何故っ

て校庭の隅

ここで一人ぼっちだったから。

私が抜いてあげてたいせつに世

話をしてあげるからね。あなた

の名前きになった?」「ええ、

気に入ったわ。私を選んで世話

をしてくれるといったのもきに

いったわ。何故なら、私、たく

さんの人に踏まれて、菜園の虫

自らに問いかけ 考える

にも食べられるから。」「あなたを一生懸命描いたらこんなに

きれいに描けたわよ。」「あり

がどう。」「じゃあ元気でね。」「

エスベム大学三年 イザベル

・リーマ。

「草さんどうしてそんなに青

いの?」「人の目に見えないか

らね。忘れられた存在さ。」「誰

に忘れられたの?」「皆に。誰

も私のご見てくれない。害に

なる雑草と見られて踏みつけら

れて、軽蔑はいべつされる。」「

「雑草さんの美しさに気がつか

ないなんて残念ね。あなたの大

切さを認めてくれないなんて・

から枯れていくのさ。」「

草と対話をしたイザベル・リ

マの感想「雑草と対話したら、

純粋無垢(むく)の小さな植物

に、現代の世の中が反映されて

いることに気がついた。自分自

身に関係のない事柄すべてにつ

いて人間は無関心そのものだ。

人間は目が見えなくなり、その

目の前で大自然が消滅していく

のだ。」

以上のように大自然の良さは

話しかけても返事がない、つま

り返答までも自分で想像してい

くところにある。いじめによる

悲惨な状況が相次ぎ「相手のこ

とを思いやる心」を育てること

の重要性が叫ばれているが、そ

れにはこのような自らの意志で

「自らに問いかけ、想像し、考

える学び」をじっくり、積み重

ねることが必要である。生命あ

る大自然との語り合いを数多く

経験していく事で、友人や両親

の気持ちを想像できる力も少し

ずつ育っていくのである。

(栃木市教育委員会参事)

日曜論壇

太田恵美子



た。ま。で、真夏のサンパウロを訪れた。

三年前、NHKのテレビで「河合隼雄と太田恵美子の対話」という番組が放映された。しばらくしてブラジルの日系二世の大学教授、山田和代さんから電話があった。サンパウロでこの番組を見て、GDV教育についてもっと深く知りたいと私を探したとのことだった。

「ブラジルでもこのような教育が必要ですか」と尋ねると、即座に「もちろん、とても重要です」との答えだった。それから三年。突然、「サンパウロに来て実際に授業をしてほしい」との申し出があり、二月十日から二十七日

サンパウロでも成果実感

ていたので、その基盤をつくるよい機会だと考えた。

今回は二つの大学と二つの小学校で授業をし、ほかに講演などもあり、予定がぎっしり詰まっていた。授業は栃木市と同じにGDVの最初の段階「草に語りかける」に取り組んだ。同時に通訳は日系の方で、私や学生の

現在、私は栃木市に招かれ、

「本気塾」や寺尾中学校でGDV教育に取り組んでいる。日本ではこの教育が「心を育てる特別な効果」になり得ることを二十年近くかけて実践、実証してきた。かねてより世界の子供たちに取り組んでもらいたいと考え

言葉を的確に訳してくれた。

最初、学生たちは「いままで気にもとめなかった草に語りかけるなんて」と驚いていた。しかし五感をときどきまぜ、草を体中で感じながらスケッチをし、草との対話を書き込んでいるうち、すべての学生は自分の世界

年齢も性別も肌の色も関係なく

素直で純真になってしまふことが、いつも不思議だ。全員の前で発表する際、さきほどの男子学生は「草君もぼくと同じ境遇だね。ぼくはたった一人で遠くの小さな島から都会にやってきて、とっても寂しいよ。君もた

に入り込み、静寂な中で三時間はアツと言う間に過ぎた。アニメビルモルンビ大学一年の野性味あふれる男子学生は、画用紙と草を手を持ち、教室の片隅の机の下に潜り込み、草と自分だけの世界で対話し、スケッチをしていた。

このようにGDV教育では、

くさんの仲間の中から抜かれてきて寂しいだろ。君の気持ち、よく分かるよ」と自分の胸のうちを語っていた。エスペエム大学の三年生も、友人の発表を聞きながら涙をぬぐっていた。

サンパウロの公立の小学校に通う子供は貧しい家庭の子が多く、将来への明るい展望はな

い。学校には給食があるから来るのであって、授業はなかなか成立しないという話を授業の前に聞かされた。しかし三時間続きの私の授業では私語一つなかった。全員が草と語り合った内容を発表し、感動的だった。参観された先生たちも驚いていた。

この子供たちにもよい教育がきちんとなされるなら、確実に社会に貢献できると私は確信した。通訳の方は「この教育は言葉の壁を越えた」と叫んだ。慣れない環境での授業でへとへとになったが、やり遂げてよかったと思った。来年はブラジル移民百周年、サンパウロ大学の学生が「来年は私たちが先生を呼びます」といってくれた。

(栃木市教委参事)

日曜論壇

太田恵美子



教授で車の
窓をスケッ
チし、語り
合った生徒

①ネイチャードリームビジョ
ンー大自然との語り合い 大自
然の面を心で聞き取り、その姿
に語りかける学び。

②ワールドドリームビジョ
ンー地球環境との語り合い 語り
かけの大自然が今どのような状
況に置かれているのか、人間が
引き起こした地球環境の問題を
一つ取り上げ、深く調査研究し、
その上でその問題を解決する方
途を考え、構想し立案する学び。

③カルチャードリームビジョ
ンー文明との語り合い 人間は
か、地球社会への貢献のシナリ
を創る学び。

④ビューマンドリームビジョ
ンー歴史を創った先人の生涯と
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

(NPO法人GDV理事長)

⑤卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑥卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑦卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑧卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑨卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

(NPO法人GDV理事長)

命と語り合い学ぶこと

GDVの最初の授業で、優勝
の星にも命がある事を学ぶ意味
は「いじめの根絶」にもつなが
る。いじめを行う生徒は相手の
心を痛みにじっていく。心は命
そのもの。冷やか、からかい、
無礼に始まる「いじめ」はすべ
く被害・暴力にエスカレート。
相手の心つまの命を痛みにじ
る。雑草や樹木や落ち葉等に語
りかける学びは、その命と語り
合うことだった。

環境問題、それは大自然の命
を粗末にしたことが起因だと言
える。次回は「いじめ問題」も
含めてGDV教育第二段階の
「環境問題」についてお伝えし
たい。

GDVの最初の授業で、優勝
の星にも命がある事を学ぶ意味
は「いじめの根絶」にもつなが
る。いじめを行う生徒は相手の
心を痛みにじっていく。心は命
そのもの。冷やか、からかい、
無礼に始まる「いじめ」はすべ
く被害・暴力にエスカレート。
相手の心つまの命を痛みにじ
る。雑草や樹木や落ち葉等に語
りかける学びは、その命と語り
合うことだった。

環境問題、それは大自然の命
を粗末にしたことが起因だと言
える。次回は「いじめ問題」も
含めてGDV教育第二段階の
「環境問題」についてお伝えし
たい。

GDVの最初の授業で、優勝
の星にも命がある事を学ぶ意味
は「いじめの根絶」にもつなが
る。いじめを行う生徒は相手の
心を痛みにじっていく。心は命
そのもの。冷やか、からかい、
無礼に始まる「いじめ」はすべ
く被害・暴力にエスカレート。
相手の心つまの命を痛みにじ
る。雑草や樹木や落ち葉等に語
りかける学びは、その命と語り
合うことだった。

(NPO法人GDV理事長)

は「草は人間に踏まれても踏ま
れても生き生きと伸び、新しい
芽、命を誕生させる。草がこん
なにすごいと思ったのは初めて
だ」と感想を書いている。

②ワールドドリームビジョ
ンー地球環境との語り合い 語り
かけの大自然が今どのような状
況に置かれているのか、人間が
引き起こした地球環境の問題を
一つ取り上げ、深く調査研究し、
その上でその問題を解決する方
途を考え、構想し立案する学び。

③カルチャードリームビジョ
ンー文明との語り合い 人間は
か、地球社会への貢献のシナリ
を創る学び。

④ビューマンドリームビジョ
ンー歴史を創った先人の生涯と
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑤卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

(NPO法人GDV理事長)

は「草は人間に踏まれても踏ま
れても生き生きと伸び、新しい
芽、命を誕生させる。草がこん
なにすごいと思ったのは初めて
だ」と感想を書いている。

②ワールドドリームビジョ
ンー地球環境との語り合い 語り
かけの大自然が今どのような状
況に置かれているのか、人間が
引き起こした地球環境の問題を
一つ取り上げ、深く調査研究し、
その上でその問題を解決する方
途を考え、構想し立案する学び。

③カルチャードリームビジョ
ンー文明との語り合い 人間は
か、地球社会への貢献のシナリ
を創る学び。

④ビューマンドリームビジョ
ンー歴史を創った先人の生涯と
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑤卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

(NPO法人GDV理事長)

は「草は人間に踏まれても踏ま
れても生き生きと伸び、新しい
芽、命を誕生させる。草がこん
なにすごいと思ったのは初めて
だ」と感想を書いている。

②ワールドドリームビジョ
ンー地球環境との語り合い 語り
かけの大自然が今どのような状
況に置かれているのか、人間が
引き起こした地球環境の問題を
一つ取り上げ、深く調査研究し、
その上でその問題を解決する方
途を考え、構想し立案する学び。

③カルチャードリームビジョ
ンー文明との語り合い 人間は
か、地球社会への貢献のシナリ
を創る学び。

④ビューマンドリームビジョ
ンー歴史を創った先人の生涯と
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

⑤卒業論文を書く。卒業直前
に「二十一世紀に生きる私たち
」私ほこんなことをして地球社
会に貢献したい」というテーマ
で論文を書く。三年間積み重ね
てきた学習も振り返りながら、
一人一人が自分の考えを文章に
まとめる。生徒たちは自分自身
の夢・志を実現させるために目
的を持って高校へと学びを進め
ていく。GDV学習は「出発の
学び」とも言える。

(NPO法人GDV理事長)

日曜論壇

太田恵美子



専業主婦から一転、私は三十三歳で公立小学校の教師となり、六年目に中学校の美術の教師となった。

初めて中学生と接し強く感じたことは、体だけは急激に成長しているがそれに伴うはずの心がありにも幼く未熟であるということだった。

その当時、校内暴力は頂点に達したと報じられていたが、現在ではもっと深刻な問題が次々に噴出し、とどまることを知らない。そんな少年たちを「今の若者は全く何を考え、何を考えているか分からない」「何をしでかすか分からない」

らないから怖い」という。

しかし、少年たちのリーダーたるべき大人たちはどうであろうか。社会、家庭も含めてあらゆる分野で目を覆いたくなるような事件が日々、頻発している。

猛省すべきは「人間の心」を

夢抱く少年は崩れない

を持った青年が必要との大義名分の下、知識の理解と記憶・記述と論考に偏った教育を「入試」という切り札をちらつかせながら六十年近く続けてきたつけは重い。

教育基本法には「人格の完成」が教育の目的であるとはっきり

り、すぐむかつき、切れる中学生を目の当たりにして私はどんな困難があろうが「二十一世紀は私たちに任せて、私たちが背負って立ちます」とはっきりと言いつける「正しいプライドをもった人間」を育てよう心に決めた。

き、どんなことで世のため、人のために貢献しようと思うのか、自分の素質をどう生かし、能力をどう磨けばよいのか「一人一人の将来にかかわる最重要な事柄、つまり生きる目当てを決め、その方向と内容について強く深い思索と研究を進める学びである。

育てることを忘れた大人の方だと考えるのではないか。体に栄養が必要ないように目には見えな

いので外から計ることはできないが、心にもっと十分な栄養を与える必要がある。

にもかかわらず国家・社会の発展のためには理解力・記憶力

うたわれている。にもかかわらず、そこに迫る「感性・心の教育」はなおざりにされてしまっているのが現状である。

しかし、少年たちはその中で日々生活せざるを得ないのだ。

このような極端な知育偏重教育により「心の栄養失調」に陥

それから十数年、中学生とともに試行錯誤を繰り返して、ようやく定年の年に「地球社会貢献の夢や志を実現させる構想を持たせる教育」「グローバルドリムビジョン教育」をつくり上げた。

「自分は将来どんな職業につ

これを私はG・D・V教育と銘打って展開。この教育により少年の心のうちが劇的に変わり得ることを確信することができた。

具体的内容については次回に述べる。

長)

(NPOO法人「G・D・V」理事